かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-1

かわさきしゅく
川崎宿

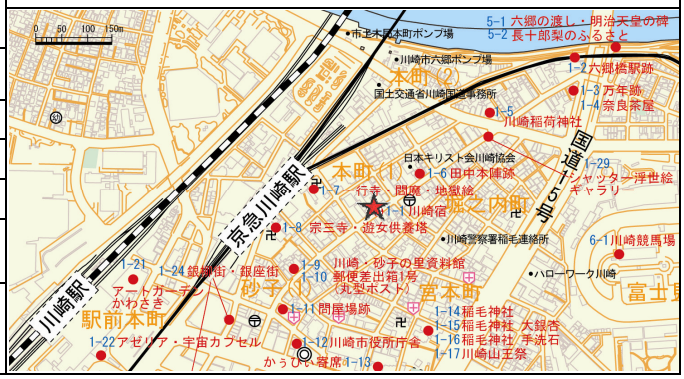
エリア	中央地区 川崎駅前北～川崎駅前南	シーズン	通年
		日時	

目的	■ 観る　■ 遊ぶ・体験する □ 食べる　□ その他
宝物定義	□ ものづくり　□ イベント・祭り □ 味づくり　■ にぎわい □ 現代の文化的なもの　□ 港めぐり ■ 歴史的なもの　□ 人物

出典:「東海道五十三次 川崎」歌川広重

所在地	六郷橋付近から八丁畷駅付近まで
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/kawasakijuku/index.htm （東海道川崎宿２０２３）
交通	

マップ



基礎情報

■元和9年(1623)、品川・神奈川間の伝馬継立を短縮して伝馬百姓の負担軽減のために開設された宿場町。小土呂・砂子・新宿・久根崎の四村（現在の小川町から六郷川まで）で構成された。当初、川崎宿は伝馬の負担で財政難に陥ったが、宝永元年(1704)に本陣職を継いだ田中休愚は5年後の宝永6年(1709)に渡し船の川崎宿での請け負いを実現させ、財政は再建された。やがて川崎大師への参拝客の増加とともに川崎宿も大きなにぎわいを見せる。
■東海道川崎宿起立400年になる2023年に向けて『東海道川崎宿2023』が発足した。川崎宿の歴史を活かしたまちづくりを地元の人が中心になって活動している。お問い合わせは、川崎区役所地域振興課（TEL 044-201-3136）まで。

由来・エピソード

■徳川幕府により、東海道に宿駅伝馬制度（街道沿いに宿場を設け、公用の旅人や物資の輸送は無料で次の宿駅まで送り継ぐという制度）が敷かれたのが慶長6年(1601)。川崎宿はそれより遅れること22年経った後の元和9年(1623)に東海道最後の宿駅として三代将軍家光によって追加制定され、正規の宿駅として開設されて以降宿駅の機構や宿場町の整備が進められた。
■開設当初にはまだ本陣がなく、伝馬の負担で財政は苦しく、宿場廃止を求める声まで出たが、それを救ったのが田中休愚であった。本陣職を継いだ休愚は六郷川の渡し船を川崎宿で請け負えるよう幕府と交渉し、宝永6年(1709)に実現させて、その収入を伝馬の費用にあてることで宿場の財政を立て直した。その甲斐あって、川崎宿は東海道を上る旅人が昼食や休息をとる宿場として、また、江戸に下る旅人にとっては六郷の渡しを控えた最後の宿泊地として賑わった。
■11代将軍家斉が厄除けで有名な川崎大師を公式参詣して以来、大師信仰の広がりとともに、川崎宿はさらに栄えた。旅人だけでなく多くの参拝客で往来は賑わい、幕末には下田から江戸へ向かったアメリカ総領事ハリスも宿泊したといわれている。

補足・その他

■平成20年(2008)、川崎宿京口跡付近（川崎区小川町10-1）に川崎宿史跡総合案内板を設置。また、総合案内板の隣に関札（宿場に休憩又は宿泊する大名などの名前が書かれた看板）を復元した。

関連シート

(1-3)万年跡
(1-6)田中本陣跡
(1-9)川崎・砂子の里資料館
(1-11)問屋場跡
(1-26)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
(5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
(31-6)NPO法人かわさき歴史ガイド協会